

平成31年 2月

酒井知恵子 学位論文審査要旨

主 査 今 村 武 史
副主査 片 岡 英 幸
同 花 木 啓 一

主論文

A randomized placebo-controlled trial of an oral preparation of high molecular weight fucoidan in patients with type 2 diabetes with evaluation of taste sensitivity

(味覚感受性を評価した2型糖尿病患者への高分子フコイダン経口剤の無作為化プラセボ対照試験)

(著者：酒井知恵子、阿部直、河月稔、下廣寿、大太好恵、先灘浩功、竹内龍男、大倉毅、笠木健、花木啓一)

平成31年 Yonago Acta Medica 掲載予定

参考論文

1. Association between serum soluble low-density lipoprotein receptor levels and metabolic factors in healthy Japanese individuals

(健常日本人における血清可溶性低密度リポタンパク質受容体レベルとメタボリック因子との関連)

(著者：下廣寿、谷口晋一、孝田雅彦、酒井知恵子、山田貞子)

平成27年 Journal of Clinical Laboratory Analysis 29巻 52頁～56頁

審査結果の要旨

本研究は、高分子フコイダンが2型糖尿病患者の臨床指標や腸内環境に与える影響を明らかにすることを目的として、薬物療法を受けていない糖尿病患者を対象に、高分子フコイダン経口剤長期間投与の無作為化プラセボ対照試験を計画し、糖尿病の臨床指標と腸内環境と関連の深い味覚感受性を評価し検討したものである。その結果、高分子フコイダンの持続摂取は、便回数増加や味覚の鋭敏化など腸内環境や消化器系に作用し、インスリン感受性が正常である場合には、糖代謝の改善につながる可能性が示唆された。

本論文の内容は、保健学の分野で、高分子フコイダン長期間摂取による腸内環境と糖尿病病態への影響を示したものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。